

## 研究計画書

ゼミ名	石川ゼミⅡ	チーム名	ISHIKAWA's IPPON
タイトル	十人十色～もし自分の子どもが障がいを持っていたら～		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	井植礼乃 池上和考 伊藤絵美 兼松優奈 河内大佑 新家輔 鈴木潤 鈴木悠人 高島基 瀧梨那 壺阪慎弥 永川貴之 夏原由衣 成合花穂梨 庭山智 野崎光晴		
研究計画内容	<p>みなさんはもし将来自分の子どもが障がいをもって生まれてきたら、と考えたことはありますか？その子の障がいを理解し受け入れることができれば、そして十分なお金さえあれば、幸せになれるでしょうか。自分の子どもを地域のサッカークラブに入れたいと考えたとき、障がいをもつ子どもの親の悩みは、金銭的な問題だけではありません。「コーチが子どもの障がいを理解してくれるか」を含め「メンバーとして受け入れてもらえるか」など、子どもを取り巻く人々が、障がいを理解し、受け入れてくれるかどうかに対して、親は大きな不安を抱えています。残念ながら、今は障がいへの理解が十分ではなく、多くの保護者が子どもたちいろいろな経験をさせたいと思いつつも、できないでいるのが現状なのです。</p> <p>社会には障がい者を含め、社会的マイノリティを救うための制度は整備されていますが、これらの制度は金銭的な援助が主であり、彼ら／彼女らの細かいニーズに残念ながら対応できていません。上記のように、私たちは、社会的マイノリティの方々がお金だけでは解決できない問題を、行政とは違った形で解決できないかと考え、先日、その解決策の一つとして、さまざまな障がいをもった子どもたちのための「ふれあいまつり」を企画・実施しました。このイベントを通じて、私たちは参加者に「幸せな時間」を提供することができたと考えています。私たちは、インゼミでの発表の場で、このイベントの概要を紹介、実施後に明らかになった課題を検証するとともに、今後実施するプロジェクトを十人十色の人々が「幸せになれる」社会を提案したいと考えています。</p>		